平成 26 年 6 月 27 日(金)発行

奈良県感染症情報

平成 26 年 第 25 週(6 月 16 日～ 6 月 22 日)
奈良県感染症情報センター(奈良県保健研究センター)
http://www.pref.nara.jp/27874.htm TEL:0744-47-3183

今週の概要

- 保健研究センター7月だより　　レジオネラ症について

❖定点把握感染症報告状況(定点当たりの患者報告数の上位5疾患)❖

順位	疾患名	奈良県			北部	中部	南部
		定点当たり	(前週)	増減			
1	感染性胃腸炎	5.09	(4.74)	↘	↘	↘	↘
2	ヘルパンギーナ	1.76	(0.94)	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	A群溶連菌咽頭炎	1.41	(1.76)	↘	↘	→	↑
4	咽頭結膜熱	1.00	(1.15)	→	→	→	→
5	水痘	0.79	(1.26)	↘	→	↓	↓

発生状況：大流行　流行　やや流行　少し流行　散発　(疾患毎に、基準値を定めています。)
増減：過去５週間平均数と比べたときの変化　↑↑急増、↑増加、↗やや増加、→横ばい、↘やや減少、↓減少

❖県内概況❖

A群溶連菌咽頭炎、咽頭結膜熱は徐々に減少していますが、例年より多めとなっています。

夏かぜの代表のヘルパンギーナが急増しています。先々週から先週へと倍増し、先週から今週へと倍増している急激な増加です。特に 4 歳以下で報告が多くなっています。例年どおりに推移すると、今後しばらく増加が続くと思われます。いつも同時期に流行する手足口病は、逆に例年よりかなり低いレベルです。

ヘルパンギーナ、手足口病の病原体は、ともにエンテロウイルス属のウイルスです。このウイルスに対する薬やワクチンは無く、治療は対処療法（喉の痛みで水が飲みにくいことから脱水状態にならないようにするなど）となります。このウイルスは、無菌性髄膜炎を起こすウイルスでもあることから、患児の状態には注意が必要です。また、元気になった後も便中にはウイルスが排出されています。排便後の手洗いを励行すること、おむつを交換した後のおむつの取り扱いに注意し、必ず手洗いすることを心がけてください。

❖お知らせ❖

◆マダニにご注意を！！

- ✓ 梅雨が明けると、ハイキング、バーベキューなどで野山や草むら入る機会が多くなってきます。
- ✓ 野山や草むらにいるマダニは、SFTS(重症熱性血小板減少性症候群)や日本紅斑熱などの病気を媒介します。
- ✓ 農作業やハイキングなどで、草むら・野山に入るときは、肌の露出がないように長袖・長ズボンを着用するようにしましょう。また、肌が露出する部分(首など)は、虫除けスプレーが有効です。
- ✓ 帰宅時は、家の外で着衣をよく払い、室内にダニを持ち込まないようにするなどの注意も必要です。
- ✓ マダニは、袖口・裾口などから入り込み、皮膚の柔らかい部分で刺します。帰宅後に、ごま粒ほどのマダニに刺されていないか、全身を点検しましょう。マダニは吸血すると巨大化し、テントウムシぐらいの大きさになっていたりします。もし、マダニに刺されている場合には、丁寧に除去する必要がありますので、皮膚科などに受診してください。
- ✓ 全国での 2013 年のSFTS患者は、5 月に次いで 7 月にも多く発生しています。

マダニ対策、今できること(国立感染症研究所)
http://www.nih.go.jp/niid/images/ent/PDF/madanitaisaku20131105.pdf

❖保健研究センター7月だより　レジオネラ症について❖

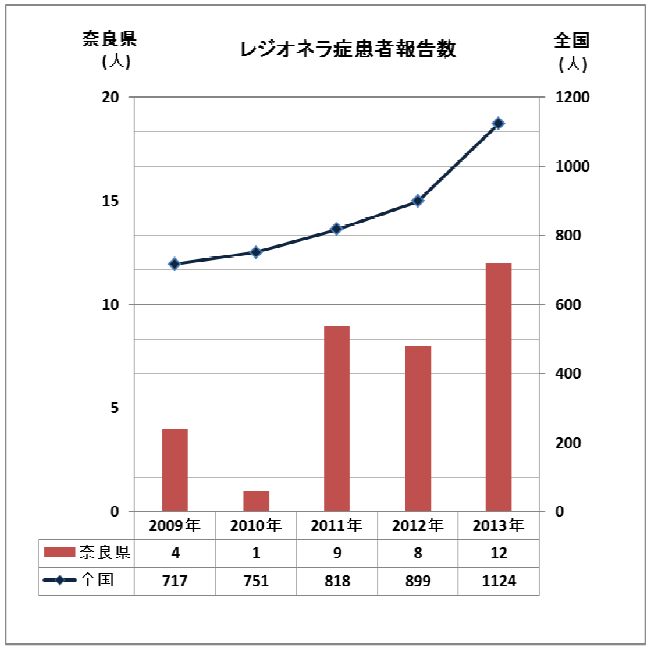
レジオネラ症は、*Legionella pneumophila* を代表とするレジオネラ属菌による感染症で、四類感染症として全数把握の対象疾患となっています。潜伏期は 2～10 日で、その病型は一過性のポンティアック熱と劇症型のレジオネラ肺炎とがあります。レジオネラ肺炎は重篤な場合は死に至る事があり、市中肺炎の約 3～10%を占めています。

レジオネラ属菌は本来、環境細菌であり、土壌、河川、湖沼及び温泉等の自然環境に広く生息し、循環式浴槽、空調システムの冷却塔や給湯器の水などの人工温水中に生息するアメーバ等の原虫類の細胞内で大量に増殖し、これらの水から発生したエアロゾルを吸入することで感染します。ヒトからヒトへの感染はないとされていますが、毎年集団感染事例が報告されています。

最近では、埼玉県の入浴施設を利用した複数の客が感染し、そのうち男性１名が死亡するといった事件が発生しニュースになりました。

施設の浴槽から基準を超えるレジオネラ属菌が検出され、患者からの分離菌株と浴槽からの分離菌株の遺伝子パターンが一致したことから感染源と特定されました。

2009 年から 2013 年の患者報告状況を見ると年々増加しており、2013 年は奈良県で 12 名、全国で 1124 名と過去最高となっています。2014 年は 24 週の時点で、全国で 432 名と、昨年同時期の 315 名よりも増加しています。またレジオネラ症患者は１年を通じて報告例がありますが、例年、梅雨期の７月にピークが見られます。



患者は男性が８割以上を占め、年齢層は 50 歳代から 60 歳代が多くなっています。

感染源として、循環式浴槽水、ジャグジー、シャワー、冷却塔水、噴水等の修景水、自動車洗浄機、野菜への噴霧水、スプリンクラー、加湿器、ネブライザー、腐葉土などが報告されています。

レジオネラ症の診断方法としては、尿中抗原検査が最も多く 96%、培養 2.8%、血清抗体価測定 1.7%、PCR （LAMP を含む）1.5%、間接蛍光抗体法や酵素抗体法による病原体抗原の検出 0.2%となっています（IASR：2008 年 1 月～2012 年 12 月の報告例、複数の検査法が記載された例を含む）。尿中抗原検査は *Legionella pneumophila* 血清群 1 しか検出できないものが多く、レジオネラ属菌を広く検出する迅速検査 LAMP が 2011 年 10 月に保険適用され、2012 年に LAMP での検出例が 5 例報告されています。

レジオネラ症を防止するには公衆浴場や福祉施設の循環式浴槽や冷却塔等の人工環境水の管理が重要ですが、集団発生時には臨床検体と感染源との双方から菌株を分離し、感染源を特定することが感染拡大の防止につながります。　（保健研究センター　細菌担当）

❖定点把握感染症報告状況❖

平成 26 年 第 25 週 6 月 16 日 ～ 22 日

保健所別報告数	奈良県	北部		中部		南部	
		奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野
インフルエンザ定点数	*55*	*11*	*16*	*11*	*11*	*3*	*3*
インフルエンザ							
小児科定点数	*35*	*7*	*10*	*7*	*7*	*2*	*2*
RSウイルス感染症	2 (0.06)	1 (0.14)			1 (0.14)		
咽頭結膜熱	34 (1.00)	9 (1.29)	11 (1.10)	4 (0.57)	8 (1.14)		2 (1.00)
A群溶連菌咽頭炎	48 (1.41)	21 (3.00)	8 (0.80)	6 (0.86)	11 (1.57)		2 (1.00)
感染性胃腸炎	173 (5.09)	22 (3.14)	73 (7.30)	31 (4.43)	32 (4.57)	9 (9.00)	6 (3.00)
水痘	27 (0.79)	10 (1.43)	14 (1.40)	2 (0.29)	1 (0.14)		
手足口病	13 (0.38)	1 (0.14)	11 (1.10)	1 (0.14)			
伝染性紅斑	3 (0.09)	1 (0.14)		2 (0.29)			
突発性発しん	10 (0.29)	5 (0.71)	1 (0.10)	3 (0.43)		1 (1.00)	
百日咳							
ヘルパンギーナ	60 (1.76)	16 (2.29)	12 (1.20)	14 (2.00)	12 (1.71)	5 (5.00)	1 (0.50)
流行性耳下腺炎	5 (0.15)	2 (0.29)			2 (0.29)	1 (1.00)	
眼科定点数	*9*	*1*	*3*	*2*	*2*	*0*	*1*
急性出血性結膜炎						–	
流行性角結膜炎	3 (0.33)	3 (3.00)				–	
基幹定点数	*6*	*1*	*2*	*1*	*1*	*1*	*0*
細菌性髄膜炎							–
無菌性髄膜炎							–
マイコプラズマ肺炎							–
クラミジア肺炎							–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）							–

上段 ：報告数
（下段）：定点当たり報告数 報告数÷定点数

❖全数把握感染症報告状況❖ （ ）は保健所別内訳

1類感染症	
2類感染症	結核5件（奈良市2、葛城2、吉野1）
3類感染症	
4類感染症	マラリア1件（桜井1）
5類感染症	後天性免疫不全症候群1件(桜井1)

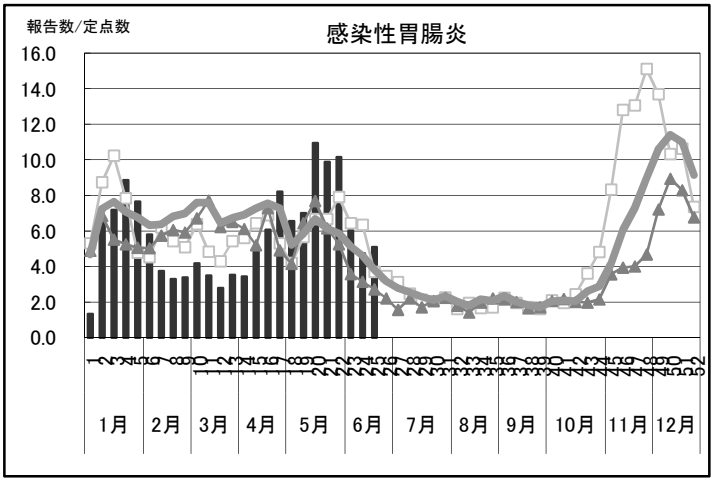
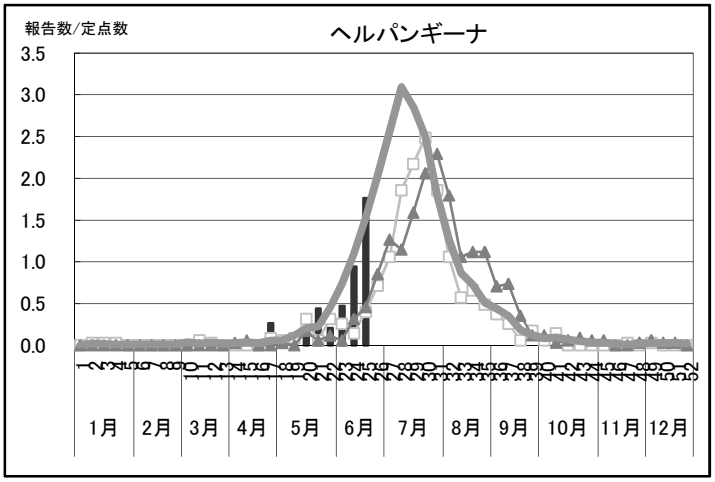
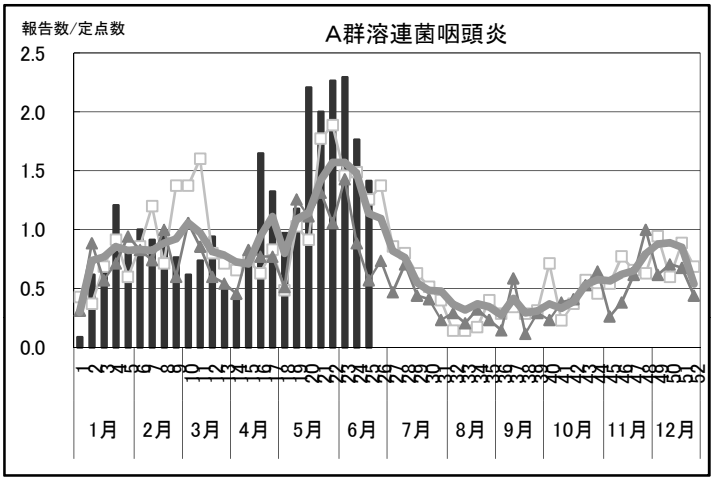
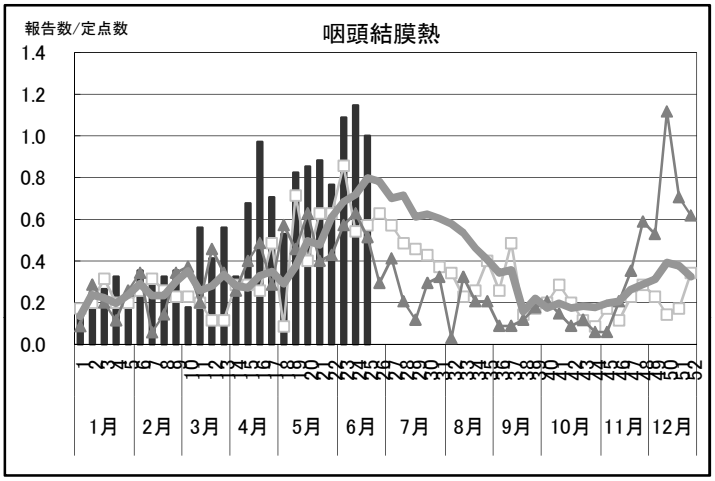
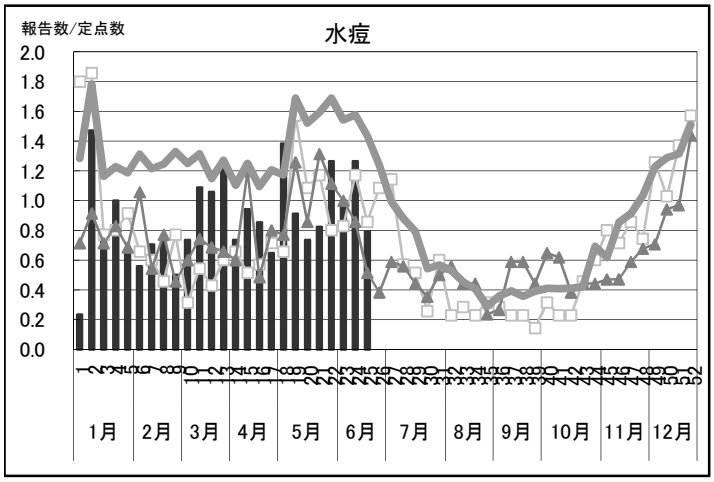
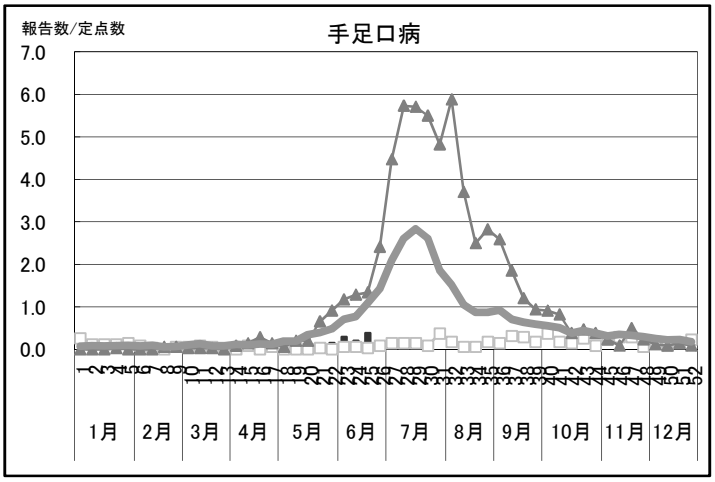
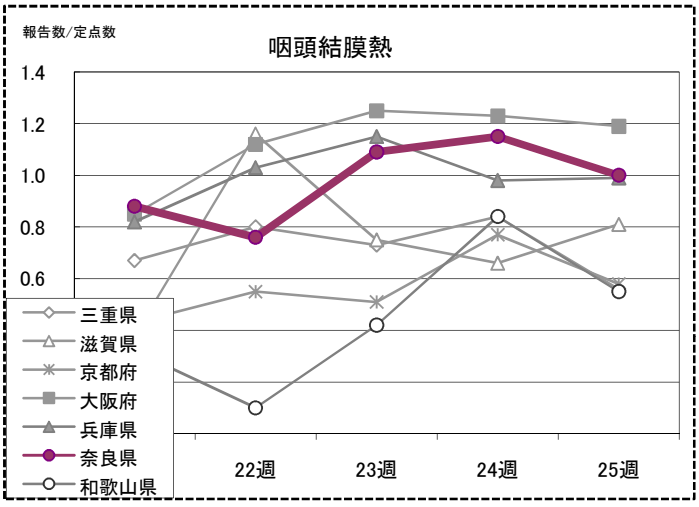
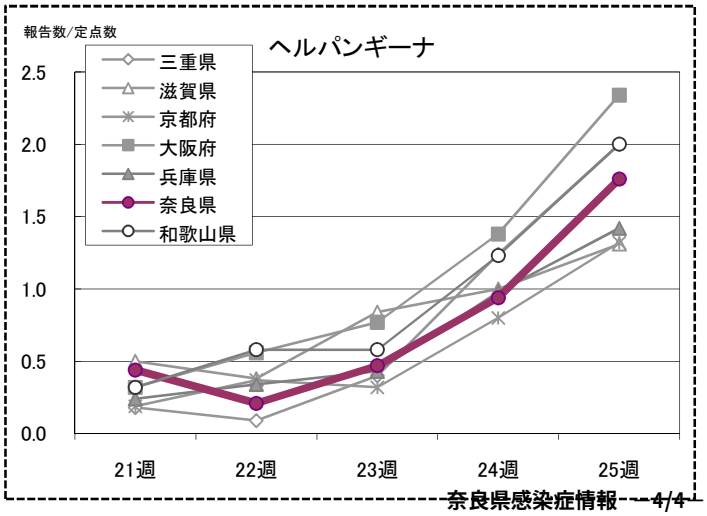
✤第 25 週のトピックス✤

注目すべき感染症〈A型肝炎の発生動向〉
http://www.nih.go.jp/niid/ja/hepatitis-a-m/hepatitis-a-idwrc/4746-idwrc-1422.html

RSウイルス感染症（IASR今月の特集）
http://www.nih.go.jp/niid/ja/iasr.html

年齢別報告数

年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-79*	*80-*	*合計*	*累計*
インフルエンザ	男																						5965
	女																						5982
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-*							*合計*	*累計*
RSウイルス感染症	男																						133
	女		1	1																		2	116
咽頭結膜熱	男			5		4	1	3	3	1												17	256
	女		1	3	2	4		4	2						1							17	221
A群溶連菌咽頭炎	男			3	1	1	6	7	1	2	3		4									28	488
	女		1		2	3	5	4		1	1	1	2									20	466
感染性胃腸炎	男		4	10	9	9	6	4	4	6	4	3	8	3	12							82	2558
	女	1	5	8	7	8	7	8	10	6		2	15	2	12							91	2373
水痘	男			2	3	3	3		2	1		1										15	404
	女		2		1	1	1	2		5												12	349
手足口病	男			3	1	1		1														6	26
	女			2	2	3																7	22
伝染性紅斑	男			1					1													2	28
	女							1														1	32
突発性発しん	男		2	4																		6	142
	女	1		3																		4	108
百日咳	男																						
	女																						
ヘルパンギーナ	男		2	10	9	2	7	2														32	86
	女		2	5	10	5	2	2		1	1											28	72
流行性耳下腺炎	男							1					1									2	42
	女							1	2													3	34
年齢区分	*年齢*	*0-5M*	*6-11M*	*1歳*	*2*	*3*	*4*	*5*	*6*	*7*	*8*	*9*	*10-14*	*15-19*	*20-29*	*30-39*	*40-49*	*50-59*	*60-69*	*70-*		*合計*	*累計*
急性出血性結膜炎	男																						
	女																						
流行性角結膜炎	男						1							1	1							3	45
	女																						49
年齢区分	*年齢*	*0歳*	*1-4*	*5-9*	*10-14*	*15-19*	*20-24*	*25-29*	*30-34*	*35-39*	*40-44*	*45-49*	*50-54*	*55-59*	*60-64*	*65-69*	*70-*					*合計*	*累計*
細菌性髄膜炎	男																						3
	女																						1
無菌性髄膜炎	男																						5
	女																						1
マイコプラズマ肺炎	男																						1
	女																						1
クラミジア肺炎	男																						
	女																						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	男																						18
	女																						18

❖注目疾患の動向❖全て定点当たり報告数

H26　H25　H24　過去10年平均